

令和6年度 岡山市子ども・子育て会議 第3回就学前教育・保育部会（議事録／要約）

日時：令和7年3月14日（金）午前10時29分～午前11時31分

場所：岡山市役所 本庁7階 大会議室

### 【開会】

○岡山っ子育成局長挨拶

○部会長挨拶

○成立確認・・・委員13人中7名出席にて定足数を充足し、成立を確認。

### 【議事】

議事進行は部会長

(1) 保育利用定員の設定について

〔事務局から資料に沿って説明〕

○部会長 委員からご意見、ご質問等はないか。

○委員 我が国の出生数が80万人を割っていて、75万人ぐらい。岡山市では6,000人が出生数ではなかったかと。

○事務局 4,000人ほど。5,000人を切っている。

○委員 そのため、定員減385人というのは理解できるが、次年度になるにつれて定員減が行われると考える。そのような場合に、公立の施設で定員の増減を調整することを覚えておいていただきたい。

○事務局 1歳、2歳といったニーズが高いところは、公立も増やしているが、全体として減少しているところが多いため、2年前から在園児に影響がない形で公立から減らしていくという方向で進めている。今後もしっかり需給状況を見ながら対応してまいりたい。

○部会長 そのほか委員からご意見、ご質問等はないか。

○委員 定員減がたくさんあるが、1号での入園希望の増減は。

○事務局 特に公立の幼稚園を中心に減っている。ただし、私立の1号の動きについて、令和5年と令和6年4月1日を比較すると、微減程度にとどまっているように見える。公立の認定こども園に行っているということもあり、公立の1号

の方が減っているという状況である。

○部会長 そのほか何かあるか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(2) こども誰でも通園制度の量の見込みについて

〔事務局から資料に沿って説明〕

○部会長 何かご意見、ご質問等ないか。

○委員 量の見込みの議題について、資料には制度の意義として、孤立の解消と書かれている。この一時預かり、誰でも通園ということで解消されると思われる孤立とはどのようにお考えかお聞きしたい。

○事務局 実際に利用されている方のアンケートも取っており、国がこの制度の意義等を訴えていることについて、負担感の軽減や、リフレッシュというところで助かっているという声もあり、一定の効果があるのではないかと考えている。

○委員 リフレッシュ、負担感の軽減は分かるが、孤立の解消にどのようにつながるのか。

○事務局 この制度は未就園のご家庭をターゲットにしており、親と子だけで生活していると、悩みを気軽に相談する人が周りにいないことで孤立感が増していくと思っている。この制度を使っただけで、孤立・不安感の軽減というのにも寄与するのではないかと考えている。

○委員 こども誰でも通園制度について、私立幼稚園はもともと親子通園のような形をとっていたが、中身が変わり、短期的な保育の延長というような形になっているため、私立幼稚園としては親子通園を認めてほしい。

親がいたら保育士と育児について話ができるが、ただ預けるだけでは親はリフレッシュにはつながるとは思うが、孤立を解消することは難しいのでは。その意味では、親子通園もありかと思っている。

親子通園について、岡山市として考えている方向性としては、どちらか。

○事務局 この制度について、当初は親子通園のようなものを想定されていたが、子供を引き離すように見える制度にシフトしているというのは、ご指摘のとおりと思っている。

この制度は改善の余地が十分ある制度だと思っているため、機会を捉まえて、要望を国に上げていきたい。

○委員 前半は親子が適度な分離をして、子供は親を見ながら不安感がなく遊び、親は先生に育児の相談をする。年度の終盤になれば親は家に帰るようにすればよいかと思う。

ただ離す、ただ預けるといったら、預かる側もプレッシャーがあり、聞いたところでは、実際に昨年度やって収支的に黒字になっている園は一個もなかった。

赤字を抱えながら誰のために何をやっているのかが分からないという声がほとんどだったため、岡山市としても子ども、保護者、園にとってそれぞれ三方得のある形をつくれたらいいと思っている。

○事務局 この制度は不十分なところが多い制度なため、よりよい制度としていくために考えていきたい。また、制度の改善についても国にしっかり訴えていきたいと思っている。

○部会長 他にご意見、ご質問等ないか。

○委員 本格実施に向けたスケジュールについて、令和6年度は118の自治体で実施、令和7年度は自治体の判断において実施とのことだが、必要定員数の令和7年度4月の分では施設数が115ということで、令和7年度、自治体の判断において実施したいと言っている園はどれぐらいあるのかということ、この人数を受け入れるに当たって、保育士の換算的に、1号、2号の通常で預けたい定員数の中に、この制度を活用した子が入ることで、1号、2号、3号で預けた人が預けられなくなっているのかどうかも知りたい。

○事務局 岡山市に限ると、公立園については2園、今年度試行でやっている南方、灘崎のこども園で実施を予定している。私立園については、今年度8事業所が手を挙げたが、令和7年度については、認可を受ける必要がある。認可を受けるに当たり、まず法人がこの事業を実施していくという意思決定を理事会のほうで諮った後に、認可の手続を取っていただくという流れになる。

これからアナウンスを各事業所にするが、実際にどのぐらい手が挙がるかは分かりかねる。採算性が見込めず、事業所が手を挙げにくい現状というのは課題として思っているため、採算が取れる制度にするよう国には訴えているとこ

ろである。そのため、施設数が全体で幾らというのは、岡山市としては現状では回答ができない状況である。

また、この事業により通常の保育のほうが圧迫されるのではないのかということだが、本来の事業である保育等を優先し、まだこの制度に取り組む余力がある事業所は手を挙げると思うが、本来の保育がなかなか入れない厳しい状況の中でこの制度に取り組むことはないと思っている。

○委員 幼稚園、保育園、こども園に通っていたら、どこかでつながっていて情報が得られるが、本当に地域からも孤立している世帯が虐待につながってはいけない。どこかにつながっていただけたら見守りしやすいため、この制度にメリットはあると思う。

また、少子化により1号が少なくなってきた。0、1、2歳をこの制度で受け入れて、3歳になったときには1号で受け入れるという長い目で見てやっていかなければと思う。

○部会長 地域の中でどこにもつながっていない家庭が実際にあるわけで、子供たちに悪い影響を及ぼす可能性はあるため、この制度がうまく活用できればいいと思う。岡山市として方向性が決まればいいと思うので、ぜひ事務局にお願いしたい。

○委員 地域で子供たちを見守りたいと活動している人が大勢いることを行政の方や保育園なり、こども園の先生方に知ってほしい。子供たちのために一緒にできることや先生方が来て話をするような連携というところをみんなで考えていきたい。

○委員 子どもを幼稚園で預かってもらっているが、月に10時間でゼロ歳や2歳の子供が不安を解消して楽しく通えるとは正直思えない。

親も1日に2時間、3時間預けている状態で、不安が大きく、月に10時間でその子と親の不安が解消できるのかというのが、少し心配なところである。

○事務局 実際に利用されている方の声としても、10時間というのは短いという声もある。時間が極めて短時間の利用ということになるため、それでその不安感や孤立感が解消するとは正直思っていないが、この時間についても、増やすよう国に訴えているところである。

令和7年度は一応10時間で国が示しておりますが、令和8年度以降、この時

間についてもまだ決まっていないため、令和8年度はどのような実施を国が示すか注視している。

○委員 親子クラブや子育て広場に参加することや、市の職員の方と地域の愛育委員とかのつながりとかを密に持つことで、孤立する方も減っていくと思う。地域でつながっていけば、ふだんの日常から孤立感はなくなっていくと思うため、何かつながりを大事にした制度になっていくとうれしい。

○部会長 孤立家庭に対する周りの働きかけをどのようにするかが今後の問題になると思うが、この制度だけで考えることは無理があると思うため、さまざまな取組をお願いしたい。

他に何かあるか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

(3) その他

○部会長 その他に何かあるか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

【閉会】